

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200992		
法人名	株式会社レナール		
事業所名	グループホーム オアシスことしば		
所在地	山口県宇部市寿町三丁目二番五号		
自己評価作成日	令和3年5月	評価結果市町受理日	令和3年9月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年6月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは宇部市の中心部に位置し、宇部線の琴芝駅から5分の所にあり、交通の便も良くご家族や親戚、ボランティア様等に訪問して頂き易い環境です。複合施設の2階に位置しており、窓からは公園や電車が見え、季節の移り変わりや、子供達が遊ぶ姿を見ることが出来ます。窓から桜も見れ、施設に居ながら花見も行えます。また、歩いて行ける場所に公園が2ヶ所、交流のある保育園、福祉会館があり、季節の花々を見たり、保育園児とのふれあいに参加していますが、今年は新型コロナ感染予防の為に、保育園への訪問は自粛しました。春には卒園される園児達が当施設の玄関先に訪問され、短い時間でしたが交流を行いました。日常では食事作りや配膳、片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみなど、これまでの経験や得意な事に力を発揮できるような支援を行っています。自治会と災害時の一時避難書の覚書を交わして地域とのつながりを深めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族との面会や地域の人との交流、外出支援など制限されることが多いコロナ禍の下、事業所では家族との関係を断つことがないように、利用者に電話やオンラインでの面会で会話をさせていただいたり、家族に写真付きのお便りや電話などを通して近況の報告を行ってまいります。利用者のストレスがたまらないように、職員は主体的に運動やレクリエーションなどを学ばれ、それぞれが得意な分野で力を発揮してまいります。利用者には体操の手本になってもらわれたり、号令をかけてもらえるなど、力を活かす発言や発表の場面を多く作られ、職員の明るい声かけで、利用者同士もお互いの頑張りや出来栄を認め合われ、冗談を交わされるなど、利用者と職員が一緒に笑顔で楽しめる活動を支援されています。利用者の状態の変化に気づかれた時は、管理者や職員が情報を共有され、それに応じた対応を検討されて、チームとして支援に取り組む力をつけておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに具体的な目標を掲げ、事業所に掲示しています。利用者、職員、来訪者がいつでも見る事ができ、日々のケアの振り返りにしています。また理念はユニット内に掲示してあり、理念とともに支援の在り方を実践につなげています。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。理念に添ってユニット毎に具体的な目標を掲げて、家族や地域と共に支え合い、利用者に向き合ったケアの実践を通して、笑顔や笑い声があふれる日々が過ごせるよう取組んでいる。職員は研修に参加して知識の習得に努め、利用者との信頼関係のもと、利用者主体のレクリエーションの場を設けるなど、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響もあり行事の中止が多い中、感染対策をしっかりと行い、保育園の訪問(施設入口)があり、次回の交流、触れ合いを楽しみにされています。	自治会に加入し、地区のふれあいセンターの雛祭りに、スタッフのひな人形を貸し出して参加している。今年は新型コロナ感染予防の為、他の行事には参加していない。この1年はコロナ禍の影響でボランティアの来訪は中止しているが、連絡は取り合っている。保育園児が七夕や敬老の日、卒園前にプレゼントを持参して来訪している。利用者は、近隣の花見等の散歩時には地域の人とあいさつを交わし、近所のコンビニエンスストアでの買い物では、店員や買い物客がドアを開けて車いすが通りやすいように配慮してくれ、あいさつやお礼を笑顔で交わすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学は新型コロナウイルス感染予防の為、入居が決まった方以外は中止していますが、電話での相談などは随時行っています。新型コロナウイルス感染予防の為、施設見学や説明会などは実施できませんでした。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で自己評価に取り組んでいます。評価の意義を理解し、日々の介護の振り返りにつながっています。	管理者は、カンファレンス時に評価の意義を職員に説明し、職員が項目を分担して検討し、ユニットの管理者2人でまとめている。前回の外部評価結果を基に目標達成計画を立て、自己評価の際には具体的な記述を心がけ、日々のケアを振り返るよう取り組んでいる。	・評価を活かした取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告、職員の異動。活動報告、外部評価の取り組み、身体拘束適正化委員会等を行い、サービスの向上に努めています。	会議は2ヶ月に1回開催し、身体拘束適正化委員会を同時に実施している。この1年はコロナ禍にあり、市担当者との連携をとり、近況報告(利用者状況、行事報告、職員状況)やヒアリング、事故報告、身体拘束適正化委員会報告、外部評価結果等の書面報告としている。メンバーと個別に相談して、保育園児との交流を検討したり、コロナウイルスのワクチン接種の時期や相談の受付などを事前に伝え、安心感を得られるように努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関する疑問や介護保険に関する家族からの相談には、市の担当者に電話で相談し回答を頂くようにしています。運営推進会議は新型コロナウイルス感染予防の為、書面で報告を行っています。	市担当者とは、運営推進会議の持ち方などを電話で相談をしたり、情報交換をして助言を受け、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターは同一法人内にあり、情報の提供を受けたり、必要時には相談をして、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム内で身体拘束をしないケアについて、定期的な研修を行い知識、理解を深め実践に取り組んでいます。玄関の施錠については利用者の安全の為、家族の理解を得て実践しています。実践内容については身体拘束適正化委員会では報告、協議しています。	職員は、年1回、ユニット内で資料を作成するなどして内部研修で学び、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。運営推進会議時に行う身体拘束適正化委員会は、今年度は新型コロナウイルス感染予防の為、開催していないが、家族を含むメンバーに、書面で、日中は施錠しないで良い状態になったことや、センサーマット等の使用目的や使用の状況などの現状報告をしている。スピーチロックや行動制限など気になるところがある時には、その都度、管理者が指導や注意をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で不適切な介護を行わないように情報を共有し、適切な介助方法や対応を話し合っています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①現在後見制度を利用されている方はいませんが、パンフレットを用意して相談に応じたいけるように準備し、学んでいます。 ②現在、成年後見制度を利用されている方が居られます。これからも理解を深めていく為の勉強に努めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書を読みながら説明し、その都度、質問にお答えしています。介護保険改定の際は、文書でご家族に通知し説明・同意書の提出をお願いしています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、施設内に掲示して受付体制を整えています。家族や利用者からの意見や要望は、その都度、施設内で協議し、反映できる体制を整えています。必要に応じて運営推進会議で報告しています。	契約時に相談や苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員などを利用者と家族に説明している。事業所だよりを年4回(定期)と何かあるとき(随時)に送って、意見や要望を出しやすいように工夫している。面会時やケアプランの説明時、電話、メール、ラインで家族からの意見や要望を聞いている。意見や苦情があれば業務日誌に記録し、スタッフ全員に伝達して共有している。家族の要望を受け、入院後の移設に関する調整を行ったり、コロナ禍で面会できないため、聖書の勉強を電話でできるよう資料のファイリングをするなど、支援に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにて業務やケアの改善やアイデアを職員が出し合い、管理者に伝えて反映させています。必要な時はいつでも相談でき、その都度、対応し反映させています。	管理者は、月1回のユニット会議や毎日の申し送りで職員の意見や提案を聞いている。日常の業務の中でも意見や提案を出しやすい雰囲気作りに努め、意見を記入する用紙を管理者が常に確認して検討している。必要により月1回の法人の幹部会議で報告し検討をしている。職員の意見や提案をケアに反映させる他、夜勤者の負担軽減の為、夜間や早朝の電話対応を他部署直通にするなど、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、資格取得などの個々の実績を把握し、給与などに反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①コロナ渦で外部研修への参加は難しかったですが、法人内の研修の他に介護福祉士会の研修や市主催の研修に参加しています。ユニット内での研修も実施しています。 ②年間4回の法人内の研修や介護福祉士会やグループホーム協会の研修に参加しています。また、各ユニットごとに研修も実施しています。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。この1年では介護福祉士会の感染症研修や、市主催の高齢者虐待防止研修会、看護協会の新型コロナウイルス感染対策研修に参加している。受講後は研修報告書を提出し、内部研修で復伝したり、資料を作って職員間で共有している。法人(拠点施設)研修は、年4回、接遇(アンガーマネジメント)、感染症対策、防災、虐待について実施している。内部研修はユニット毎にカンファレンス時に、管理者や職員が講師となって年6回、感染症、認知症、身体拘束、防災、高齢者の熱中症について実施している。新人は日々の業務の中で管理者や先輩職員から介護の知識や技術を学んでいる。資格取得については受講しやすいよう勤務の配慮をしている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設がグループホーム協会に所属し、勉強会に参加しています。そこで県内の他施設との交流や情報交換を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染予防の為に参加できていません。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の今までの生活や家族の事・仕事歴等をゆっくりと伺い、不安や要望が自然に話せるよう雰囲気作りに心がけています。傾聴し受容する事で安心感を持って頂けるようにしています。			
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや不安・要望等をゆっくりと伺い、不安が解消するように事例等をあげてわかりやすく説明しお話をしています。いつでも相談に応じることを説明し、信頼関係を築けるようにしています。			
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、本人の状況や家族の要望が、グループホームで対応できるか見極め、他の支援も含め情報提供を行っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯たたみなど、お互いが感謝やねぎらいの言葉をかけ合いながら、共に生活していく関係を築いています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①面会ができない中で、家族との関係が疎遠にならないように電話や便りなどで近況を報告し、本人と会話をさせていただいています。リモートでの面会を3パターン用意して実施しています。 ②新型コロナウイルス感染予防の為、面会中止継続中。本人の近況と写真を添えて月に1回、家族に発送しています。必要品や嗜好品の購入等をお願いするなど協力して頂いています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①コロナ渦のため行動制限があり、なじみの場所へ行くことはできませんでしたが、会話の中で回想していただけるように支援しています。 ②本人の馴染みの場所や人を日頃の会話や記録等から得た情報を職員間で共有・把握しています。毎日の生活の場面毎に話題にしています。リモート面会を検討中です	コロナ禍にあつて、家族の面会は感染状況に合わせて、ホールで行ったり、リモート面会を実施するなど工夫している。電話や手紙での交流を支援している。管理者が利用者の写真と近況報告を毎月の請求書に同封して家族に伝え、家族から差入れがあったときには、直接本人から電話やライン等でお礼が伝えられるように支援している。外出中止で教会の礼拝に参加できない利用者に、家族の協力を得て、電話で聖書の勉強をしたり、毎日、ミサや讃美歌のCDを聞けるように支援している。拠点施設の有料老人ホームに入居されているご主人との面会を利用者様の体調の良い時に行うなど、馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が深まるように、全体での活動や日頃のふれあいや他者の頑張りを応援するなど声かけ合っています。食堂や廊下ソファで利用者同士が不安を相談したり、慰め合う様子も日常的に見られ、支え合う関係が築けています		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も、電話などで相談に応じることが出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との個別の会話からヒアリングし、また行動観察し思いや意向を把握する様に努めています。困難な方には表情やしぐさ・態度から意向に沿っているのか判断し、検討しています。	入居時に基本情報シートやフェイスシートを活用して、利用者や家族の思いや意向の把握をしている。日々の関わり合いの中での利用者の表情や言動を経過記録に記録し、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、申し送り簿やカンファレンス記録で共有している。把握が困難な場合は、カンファレンスで全職員で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方や趣味、嗜好等、本人や家族、ケアマネジャーから伺い、入居時に介護方針を立てて職員間で共有し、把握に努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態など、タブレットに記録し、職員間で共有。現状の把握に努めています。体調の変化や認知症の進行等に対応し、一日の過ごし方も検討しています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎にモニタリングし、現状に即しているかなど検討し、見直しています。ご本人の言動、要望、変化等を毎月のカンファレンスやその都度、職員で話し合い、介護計画に反映させています。	利用者や家族の思いや要望を聞き、業務日誌に記録し、主治医や訪問看護師の意見を参考にして、月に1回のカンファレンスで職員が話し合っって介護計画を作成している。タブレットを活用する介護計画とは別に、短期目標を印刷して、常に職員がケアをチェックしている。管理者や利用者を担当する職員が3か月に1回モニタリングを行い、6か月毎に計画の見直しをしている。本人の状態や家族の要望に変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに個々の経過や状態の変化、気づきを記録し、その都度ケアの見直し・実践しています。ご本人の言動、要望、変化等をカンファレンスや必要時には職員で話し合い、介護計画に反映させています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、定期的な訪問診療や訪問看護。日々の観察にて体調悪化時の早期の入院までの対応、支援に取り組んでいます。認知症や身体機能の低下には、福祉用具を適正に使用できる体制を取っています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治会長、保育園の園長、地域のお世話役の方に運営推進会議の委員になって頂き、地域の行事や、公民館行事の案内を受け参加していましたが、現在は新型コロナウイルス感染予防の為、地域の行事の参加・交流、ボランティアの訪問等、控えている状況です。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の医療機関の訪問診療のほかに、訪問歯科診療、形成外科の在宅診療、家族の協力を得ながら眼科の受診を利用し適切な医療を受けられるように支援しています。専門意の受診が必要な時には主治医と家族で、相談し適切な診療が受けられるように支援しています。	本人や家族の希望により協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回訪問診療を受けている。緊急時や夜間、休日は24時間オンコール体制で対応している。歯科は月1回、訪問診療があり、必要に応じて形成外科の往診や、家族である皮膚科医の協力を得ての訪問診療がある。その他の科の受診は事業所が支援している他、家族の協力も得ている。診察結果は家族に電話で報告し、申し送りノートや業務日誌に記録して職員間で共有している。月2回訪問看護師による健康観察があり、状態に変化があれば協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護職員やユニット内の看護師との相談や情報交換をしながら看護を受けたり、適切な受診のアドバイスをもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーでの情報提供や、不足の情報は電話や口頭で説明しています。入院中は治療の経過などを電話などで伺い退院後の生活がスムーズにいくようにしています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の事業所の方針を契約時や症状の悪化のある時に説明し、家族の意向を確認して方針を決定しています。住み慣れた場所、なじみの職員とできるだけ過ごせるように取り組んでいます。	「看取りに関する指針」を基に、契約時に事業所でできる対応について家族に説明をしている。実際に重症化した場合は早い段階から利用者や家族の意向を聞き、主治医や関係者との話し合いを行って方針を決めて共有し、法人や協力医療機関等と連携して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	個々の状態を把握して、適切な福祉用具の使用や見守り、食事の工夫に取り組んでいます。事故発生時には報告書を作成し状況や原因を明確にし、対策を立てて再発防止をしています。応急手当や初期対応のマニュアルを作成し勉強しています。	事例が生じた場合は、当日の担当者が、ヒアリハット、事故報告書に原因や対応、今後の対応策を記録して管理者に提出している。月1回のカンファレンスで再度話し合い、個別の介護計画に反映して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。「応急手当や初期対応のマニュアル」をいつでも見える場所に置き、職員は個々に学習している。熱中症の症状、予防、対策について内部研修を行い、利用者の状態に応じた事故防止には取り組んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度はコロナウイルスの蔓延もあり避難訓練や消防訓練の実施が見送られましたが、防災についてのディスカッションを行い災害時の対応を全職員が身につけることができるようにしています。	この1年は、新型コロナウイルス感染防止のため、消防、避難訓練を見送っている。研修の一環として職員が防災についてディスカッションし、防災マニュアルの見直しや、事業所の防災について再確認している。事業所を地域の人の一時避難場所として活用する覚書を交わし、初年度に自治会員に周知したが、その後の検討は中断している。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重しプライドを傷つけない対応と声掛けを行っています。特に排せつや入浴には羞恥心に配慮しています。	内部研修の認知症研修で尊厳の保持、プライバシーの保護について学び、職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに取り組んでいる。気になるところは管理者が注意している。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務を遵守するよう取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを普段の表情や会話から引き出されるように心がけ、生活の些細な場面で自己決定ができるように働きかけています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切に起床、就寝、休息、入浴などを実施しています。また本人の希望を聞きながら活動を進めています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選択できる方には洋服を選んでいただいています。難しい方には選びやすい工夫をしています。化粧品や洋服の購入には家族にも協力してもらっています。訪問美容に本人の希望の髪形を伝えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や、行事ごとのメニューで季節感を感じてもらえるようにしています。忘年会やお花見弁当など利用者、職員と一緒に楽しく会食するなど楽しめる時間を作っています。日々の食事の片付けや食事作りを行って個々の力を発揮してもらっています。	ご飯と汁物は事業所でつくり、副食は法人からの配食を利用している。利用者の状態に合わせて、1品毎に直前にミキサーにかけて提供するなどの配慮をしている。食事作りの日を設け、利用者と一緒に昼食(弁当、カレー、ちらし寿司、チキンライス、松茸ご飯、栗ご飯。ピラフ、炊き込みご飯など)を作り、利用者は野菜を洗う、皮をむく、着る、味見、盛り付け、テーブル拭き、配膳、後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで同じものを食べ、会話をしながら楽しく食事をしている。季節の行事食(おせち料理、土用のウナギ、冬至のカボチャ、クリスマスケーキの飾り付け)や毎月1日の赤飯、法人合同の誕生会での刺身とケーキ、月1回のおやつづくり(どら焼き、フルーツゼリー、あんみつ、水ようかん、かき氷、鈴カステラ、ホットケーキ、杏仁豆腐など)、外出行事の代りの行楽弁当など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務記録に食事、水分量を記入して必要量が摂取できているか確認しています。個々の力に応じて刻み、ミキサー食を提供し、栄養が不足がちな方には経口栄養剤を処方してもらい体重の増減にも気を配っています。自宅での習慣も継続できるように個々に応じた支援をしています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアセットの準備や声掛け、個々の能力に応じて介助をしています。義歯の洗浄も毎日行えるように支援し、訪問歯科診療も受けて口腔ケアしています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用して個々の排泄パターンに合わせた介助を行って失敗が減るように支援しています。排泄用品も時間帯や状態に合わせて使用して気持ちよく過ごしてもらえるようにしています。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、尊厳を損ねない言葉かけや利用者 に合った誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表への記入、申し送りなどで状態を把握し水分補給や体操などで自然排便を促しています。便秘の際には医師の指示に従って服薬や座薬の使用で排便を促しています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて入浴の声掛けをしています。好みのお湯の温度や入浴時間、浴槽での歌唱など入浴を楽しんでもらっています。体調や能力に応じてシャワー浴、足浴、清拭でも清潔保持ができるように支援しています。	日曜と水曜を除いた毎日、9時30分から12時まで、湯加減や順番など、利用者の希望に合わせて入浴できる。入浴剤の利用、個人用の化粧品やオイルの利用、セラミドのかかり湯、季節のゆず湯、職員との会話、歌を歌う等、一人ひとりがゆったりとくつろいだ入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人には、無理強いしないで入浴時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をしている。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、下半身シャワー、シャワー浴をなど個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、体調に合わせて日中の休息や起床時間、就寝時間を支援しています。昼夜の区別のため衣類の更衣の介助を行い、照明も個々の好みに気を配って気持ちよく眠れるように支援しています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の作用について処方箋を見て確認しています。症状の変化があったときには医師に報告し受診や指示をもらって対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力を生かして食事作りや片付け、掃除、洗濯干しや洗濯畳みなど活躍できる場面を作っています。保育園との交流や季節ごとの行事、折り紙などの制作、また得意な活動に取り組んでもらっています。自室や食堂で好きなおやつや飲み物を楽しんでいただいたりおやつ作りを行っています。	書き初め、節分の豆まき、おひな様づくり、七夕の飾り付け、スイカ割り、弥生祭り、敬老会、クリスマス会、忘年会(焼肉)、雪だるま作り、誕生会、喫茶(ドリップコーヒーとスイーツ)、季節の壁飾りづくり(桜)、幼稚園児とのプレゼント交換、訪問美容、広告紙でゴミ箱づくり、雑巾を縫う、電子ピアノ演奏、合奏、踊り、そろばん、習字、写経、雑誌や新聞を読む、皇室アルバムを見る、テレビやDVD視聴、動物や歌の番組の録画の視聴、ぬり絵、貼り絵、ラジオ体操、リハビリ体操、タオル体操、ダンベル体操、口の体操、歌レク体操、画像を見ながらの体操、風船バレー、トランプ、かるた、双六、立体パズル、おはじき、お手玉、計算ドリル、漢字ドリル、ジェンガ、言葉さがし、しりとり、クイズ、掃除(モップで床掃除、ハンドワイパー掛け)、カーテンの開閉、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯たたみ、食事の準備や片づけ、昼食づくりやおやつづくり、ベランダの花の植付けなど、利用者の喜びや張り合いとなる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出時はマスクの着用や人込みを避けるなど、感染対策をしながら散歩や近くのコンビニエンスストアに買い物ができるように支援しています。	季節の花見(多世代ふれあいセンターの梅、児童公園の桜、紅葉)の散歩、コンビニエンスストアでの買い物、事業所周辺の散歩などに出かけている。コロナ渦のため、家族の協力を得ての外出を含めて外出の機会は制限されているが、事業所内で体を動かす体操や運動ゲーム(風船バレーやボール投げなど)で気分転換できるよう工夫している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じてお金の所持を支援しています。使用については家族や本人と話し合いを行っています。近くのコンビニエンスストアや施設内の売店でお菓子の購入を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いたときや、話したい時には職員が支援して電話をかけています。家族や本人の希望に沿って定期的に電話ができるようにケアプランを立て、年賀状を本人から家族に出していただいています。コロナウイルス感染予防対策としてリモートでの面会も行っています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は職員が掃除、換気、消毒をして清潔を保っています。ウイルスを除去する清浄機も設置してコロナウイルス対策を行っています。季節に応じた飾りつけや利用者様の作品を飾って季節感や生活感を取り入れています。廊下や食堂にはソファを配置し、本やパズル、そろばんなど自由に使えるように配置しています。	共用の広い空間には大きな机や椅子、ソファをゆったりと配置し、いろいろな人と話ができるように配慮している。広々としたガラス窓から公園の木々が展望でき、季節の花や壁面飾り、利用者の作品などで季節感を感じることができる。利用者が主体的な生活ができるよう、パズルなどのレクリエーション用具や雑誌などを自分で取り出せるように収納を工夫している。新型コロナウイルス対策として空気清浄機を設置し、消毒や室内の温度や湿度、換気に配慮して、利用者が安心して心地よく過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下に椅子やソファを配置して一人になられたり、利用者様同志会話を楽しまれたり、職員とも会話できるように配慮しています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や日用品、手作りの装飾品を持参していただいています。苑で作成した作品を飾ったり、家族からの贈り物や音楽CDやテレビの視聴もできるように支援しています。	テレビ、時計、椅子、ソファ、CDプレーヤー、衣装ケース、鏡、くし、自然に関する図鑑、聖書、CD、ルーペ等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、ぬいぐるみ、カレンダーなどを飾って本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、洗面所には手すりが設置されており、車いすや歩行器で使用できる個室トイレ、身長や姿勢に合わせて椅子の高さやクッションを使用して安全と自立に配慮しています。各部屋はネームプレートで分かりやすく表示しています。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームオアシスことしば

作成日: 令和 3 年 9 月 4 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全職員での自己評価への取り組み	全職員で自己評価を行い、良い点や悪い点を含め課題を見つけ目標達成に向けて取り組む	1. 具体的な記述を心掛ける 2. 課題や目標について話し合う	1年
2	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に着けるための定期的な研修の継続	内部研修の充実・継続を図る	1. 応急手当や初期対応などの研修の実施 2. 研修計画をたて実践し記録に残す	2年
3	36	地域との協力体制の構築に向けた取り組みの継続	地域との協力体制の再度確認を図る(新型コロナウイルス感染予防にて、地域との交流が行えなかった為、継続する)	1. 地域へ向けたPR活動の継続 2. 地域委員を増やしていく活動の継続	2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。